

要旨

本論文は、ツイートの信頼性分析を中心として、福島第一原発事故に対するツイッター利用者の行動を考察したものである。本研究では、2,156 ユーザーから発信された 4,950 件のツイートを分類した結果、ユーザーが被災地に近いほど、信頼性の高い情報源を引用する傾向にあることが判明した。具体的には、日本国内に在住するユーザーのほうが高信頼度の情報源を引用する傾向にあり、被災地に近いユーザーほど、災害に対する社会的責任感が強いことを含意すると考えられる。また、一般にプロフィールの情報開示度が低い匿名のユーザーは低信頼度の情報源を引用しやすく、日本語のユーザーはプロフィールの情報開示度が低い傾向にあることもわかった。それにもかかわらず、日本語の引用系ツイートは他言語の引用系ツイートに比べて低信頼度の情報源に基づいて発信されたものは少なかった。この結果は、震災時のツイッター利用において、被災地からの距離によって発信する内容の情報源の信頼性に対する関心が異なることを示唆している。

キーワード：ツイッター、匿名性、ソーシャル・ネットワーク・サイト、東日本大震災、信憑性

¹ 本稿は、Thomson & Ito (2012) 「Social responsibility and sharing behaviors online: The Twitter-sphere's response to the Fukushima disaster」 『International Journal of Cyber Society and Education』 5 巻 1 号の日本語訳です。